

# 「ワルシャワ・フィルと奏でるショパン」

うしだ ともはる  
牛田 智大 (ピアニスト)

今回初めてワルシャワ・フィルと共演します。ショパンの母国ポーランドが生んだオーケストラとショパンの曲を演奏できることを大変嬉しく思います。今年の8月、ポーランドでレッスンを受けてきたのですが、ワルシャワ・フィルとの共演を控えていることを話したところ、先生がしきりに「ワルシャワ・フィルほどショパンを理解しているオーケストラはないから何も心配いらない。安心して演奏してきなさい」とおっしゃったことが印象に残っています。ショパンの協奏曲第1番は弾けば弾くほど難しいと感じる曲なのですが、先生の言葉通り大船に乗ったつもりで演奏したいと思います。



(C)Ariga Terasawa  
<衣装> 企画：(株)オンワード樺山 縫製：グッドヒル(株)

今回演奏する協奏曲第1番は、ショパンの若い頃の作品で、古典派の影響を受けています。ショパンと聞くと、ロマンチックとか叙情的という印象が強いかもしれませんが、それとは少し違ったショパンの側面を感じ取ることが出来る作品だと思います。この曲の魅力をぜひ会場で楽しんでいただければ嬉しく思います。

この曲を初めて演奏したとき僕は13歳だったのですが、初めて盛岡に行ったのもちょうどその頃で、駅にある焼肉屋で初めて冷麺を食べて、とても美味しかったのを覚えています。それ以来、飲食店でメニューに冷麺が載っているのを見つけると注文してみるのですが、盛岡で食べた冷麺ほど美味しいものには未だ出会っていません。今回の盛岡再訪では美味しい冷麺も楽しみたいです。

(情報誌「ぼけっと」12月号“ホールへようこそ!”より)

## <プロフィール>

1999年10月いわき市生まれ。父親の転勤に伴い、生後すぐ上海に移り6歳まで滞在。幼少の頃より音楽に非凡な才能をみせ、3歳よりピアノを始める。5歳で第2回上海市琴童幼儿鋼琴電視大賽年中の部第1位受賞。8歳の時から5年連続でショパン国際ピアノコンクールin ASIAで1位受賞。2012年(12歳)、第16回浜松国際ピアノアカデミー・コンクールにて最年少1位受賞。2012年3月に日本人ピアニストとして最年少(12歳)でユニバーサルよりCDデビュー。その後、2013年「想い出」、「献呈〜リスト&ショパン名曲集」、2014年「トロイメライ〜ロマンティック・ピアノ名曲集」が発売され、2015年「愛の喜び」(ユニバーサル ミュージック)に続き、2016年「展覧会の絵」はレコード芸術で特選盤に選ばれている。各地でのリサイタルに加え、2014年にはウィーン・カンマー・オーケストラ、2015年にはミハイル・ブレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管、2016年10月には小林研一郎指揮ハンガリー国立フィル日本公演のソリストを務める。2014年9月5日には初の海外公演を行い、台湾の高雄市交響楽団と共演。上海にて陳融樂(現在バンクーバー在住)、鄭曙星(上海音楽学院教授・ピアノ学科長)、日本にて金子勝子(昭和音楽大学・大学院教授)の各氏に師事。現在、モスクワ音楽院ジュニア・カレッジに在籍。ユーリ・スレサレフ(モスクワ音楽院教授)、ウラディミール・オフチニコフ(モスクワ音楽院教授)他の各氏に師事。